

淀の松原

淀の松原は、かつて馬の放牧地でした。この小さなクロマツ (*Pinus thunbergii*) の林は、大正時代 (1912-1926) に深久保の青年団が植樹したものであるため、多くの木が樹齢 100 年を超えています。当時、約 1 万本のクロマツが植えられました。

これらの木々は、強い潮風に対する自然のバリアの役割を果たしています。ここで合流する暖流と寒流は、四季折々の多様な海浜・高山植物やその他の固有植物にとって理想的な環境をつくりだしています。淀の松原は春夏ともに緑豊かですが、冬には時折雪に覆われ、浮世絵を思わせる風景を見せてくれます。

松原には、注目すべき洞窟がいくつもあります。そのうちのひとつにはかつてこうもりの群れが棲んでおり、別のひとつには修行僧が住んでいたとされます。地元の伝承によると、地獄穴 (Hell Hole) と呼ばれる深い洞窟は、150km 近く南に離れた岩手県宮古市まで続いています。

淀の松原から南に歩き続けると、種差天然芝生地に到着します。